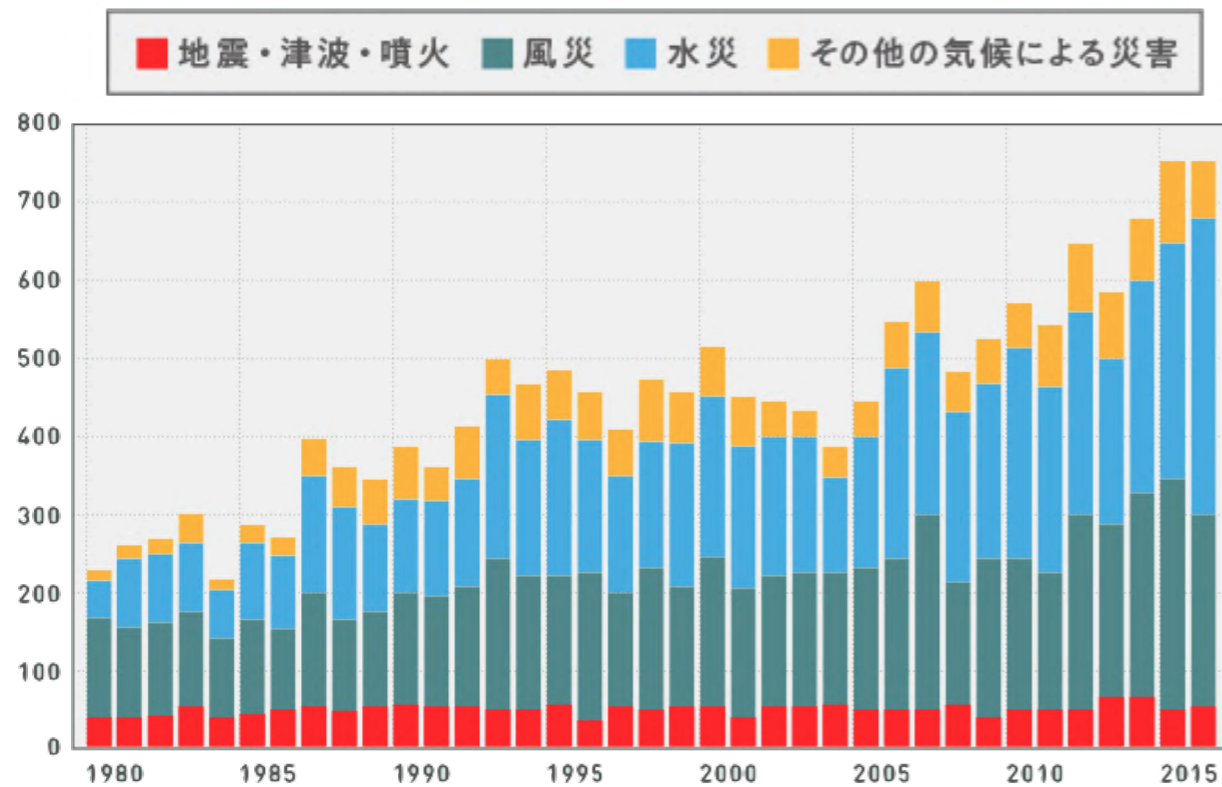




 Resilire™

BCM/サプライチェーンリスク管理のDXで
持続可能な企業経営に貢献する

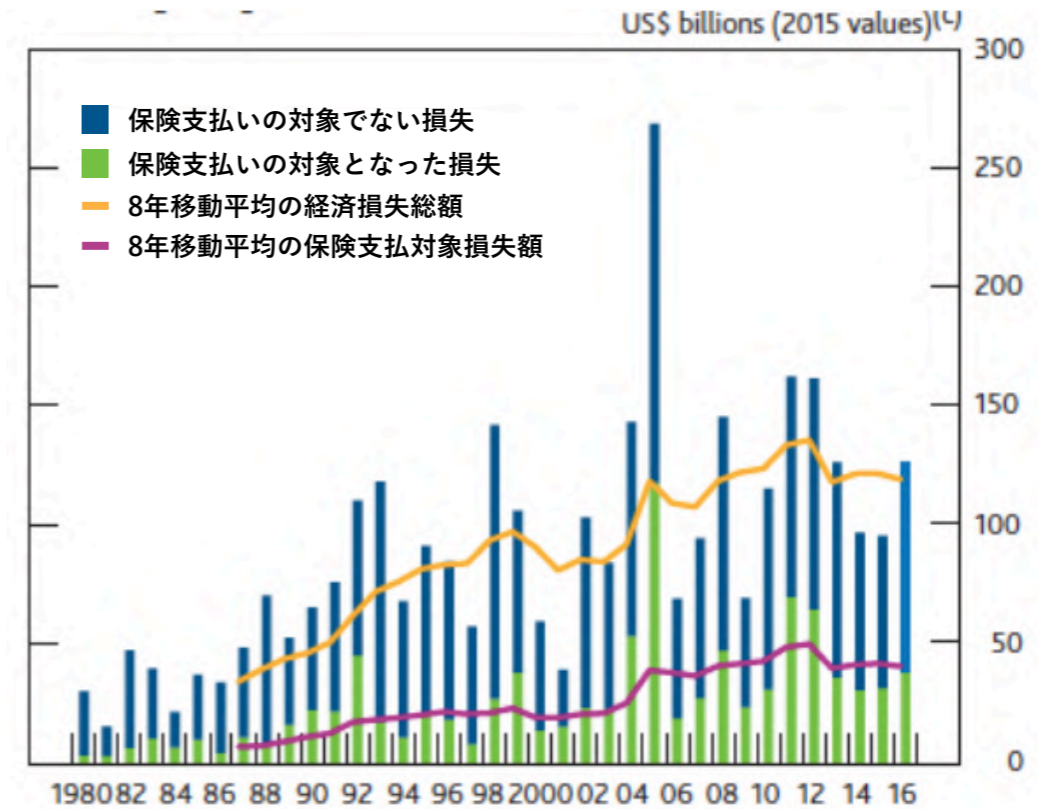
自然災害要因別 発生件数推移



出典：MS&ADインターリスク総研発行「RMFOCUS Vol.63」

世界の自然発生件数の上昇

自然災害による損失額推移



出典：Bank of England, Quarterly Bulletin 2017 Q2, 2017

損失総額が過去30年で約**3倍**に増加

企業のリスクは**年々増加**



有事を想定した平時を構築することが重要な時代に

サプライチェーンに影響を与えるインシデント

- まだまだ混乱が続く新型コロナウイルス(COVID-19)
 - 急激で広範囲に及ぶ需要の変化
 - 日本各地,世界各国で多発する浸水害,土砂災害
 - 30年で7~8割の確率で発生が見込まれている南海トラフ地震、首都直下地震
 - 複数の大規模工場での火災,爆発事故
 - スエズ運河の座礁
- …etc

私たちが解決する課題

サプライヤーや拠点の 把握が困難

委託先及び調達先の把握に、購買担当の3割の業務が奪われている

被災状況の把握が困難

サプライチェーン途絶や拠点や倉庫の被災状況把握が遅れ供給停止し損害を伴っている

**供給停止により
大きな損害を伴っている**



Resilireの提供する価値

1

取引先や社内の他部門を巻き込み サプライチェーンや重要拠点全体を管理

委託先だけでなく、原料調達先まで
クラウドでサプライチェーン全体を可視化可能になります。



2

被災影響のある拠点や サプライチェーンが把握できる

災害時に被災したサプライヤーと被災によって影響の出る
サプライヤーまで把握可能になります。



サプライチェーンや重要拠点をツリーで管理

サプライヤーや拠点数が膨大になると、管理に掛かる手間が大きくなってしまいます。Resilireは時間をかけず楽に管理できる使いやすさがあります。

1

サプライチェーンや重要拠点全体を管理

The screenshot displays the Resilire SCM interface. On the left, a navigation menu includes 'SCM', 'マップ', and 'メール'. The main area shows a hierarchical tree structure under the 'SCM' heading. The tree consists of three main branches, each starting with '〇〇製品'. The first branch has two sub-nodes: 'XX株式会社' and 'XX株式会社 容器'. The 'XX株式会社' node further branches into '田中工場' and 'XXYY工場 品目01'. The second branch has two sub-nodes: 'XX株式会社 容器' and 'XX株式会社 容器'. The 'XX株式会社 容器' node branches into 'XXYY工場 プラスチック' and 'XXYY工場 プラスチック', which then branches into 'XXYY工場 プラスチック素材01, 素材...'. The third branch has one sub-node: 'XX株式会社', which branches into two 'XXYY工場' nodes. On the right, a detailed view of a node is shown, including tabs for '詳細', '状況反映', and '戦略'. The status is 'ステータス: 正常'. The title is 'XXYY工場'. The item name is '品目' with a '+ 品目を追加' button. The email is 'test@gmail.com'. The phone number is '090-0000-0000'. There is a '共有メモ' section with a link to '初動マニュアル' and a '+ メモを追加' button. The '拠点情報' section has a '+ 拠点情報の追加' button. A red '削除' button is at the bottom right.

ツリー上にサプライチェーンや社内拠点を構造的に管理。
途絶箇所は色が変化し緊急時対応を促す。

担当にアカウントを振る事で

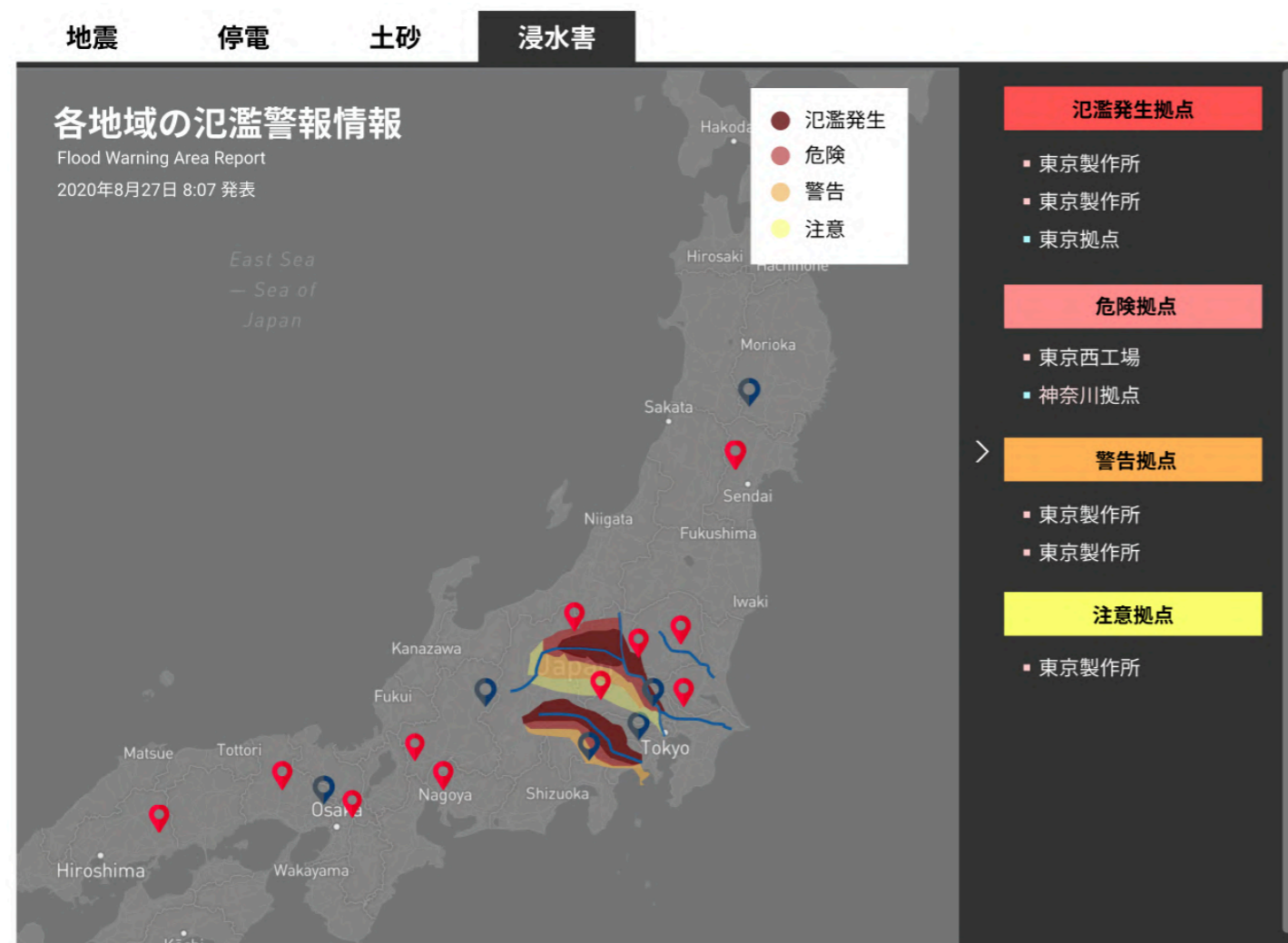
クラウドでネットワークを構築

シンプルでわかりやすいマップUIで 被災影響のある拠点やサプライヤーを把握できます！

2

被災影響のある
拠点とサプライヤーを
把握できる

情報が細かくて瞬時に影響範囲を把握できない場合があります。Resilireは誰が見ても被災影響エリアを瞬時に把握できるマップ機能があります。



被災状況把握マップ

地震、河川氾濫、停電等被災状況について気象庁等情報から自動でマップ上に可視化する事が可能です。

重要な拠点やサプライチェーン等をマップ上でピン挿しでき、どこに被害がある可能性があるかリスト化する事ができます。

マップで首都直下地震の模擬災害

2

被災影響のある
拠点とサプライヤーを
把握できる

Resilire 現在は訓練モード中です。操作した内容は訓練モード終了時に破棄されます。 qa-company-0001

被災状況マップ

地震 浸水害 停電 土砂

各地域の震度情報
Seismic Intensity Area Report
2021年8月23日 19:8 発表
※震度5以上の地震のみを表示しています。

過去の地震記録 >

震度7 影響拠点

震度6弱 影響拠点

- 下請け会社A
テスト拠点
- テスト
オフィス01
※メールアドレスが追加されていません
- 北海道拠点01
東京
- 市川
市川市
※メールアドレスが追加されていません
- 習志野
習志野
- 鎌ヶ谷市
鎌ヶ谷市
- 茂原市
茂原市
※メールアドレスが追加されていません
- 野田市
野田市
※メールアドレスが追加されていません
- 松戸市
松戸市
※メールアドレスが追加されていません
- 川崎拠点
川崎拠点
※メールアドレスが追加されていません
- 委託企業A
東京工場
※メールアドレスが追加されていません

模擬訓練

首都直下地震の災害を模擬的にクラウドに発生させ、影響拠点を確認し、事前にリスク認識することができます。

サプライヤーや拠点担当者への 連絡及び通知が簡単にできます

2

被災影響のある
拠点とサプライヤーを
把握できる

新規メールを作成

宛先 内容 送信

宛先を選択 地域 個人

地域	取引先数
<input type="checkbox"/> 北海道	12
<input type="checkbox"/> 東北	34
<input type="checkbox"/> 関東	98
<input type="checkbox"/> 中部	28
<input type="checkbox"/> 近畿	75
<input type="checkbox"/> 中国	14
<input type="checkbox"/> 四国	8

キャンセル 次へ >

送信する内容を記入

設定フォーム設定
 あり なし

Q1.現在正常に機能していますか?
 正常 異常

Q2.いいえの場合は被災状況及び復旧目処について教えてください。

< 戻る 次へ >

被災状況確認メール

マップで導き出した被災影響の可能性のある拠点やサプライヤーだけにメールを送ることもできれば、地域毎や個別毎にメールを送ることもできます。

回答をクラウドで集約できるので、すぐに全体像を掴むことが可能です。

送信一覧

集計中のメール

被災状況についての確認
2021.03.01(火) 10:00

被災状況についての確認
2021.02.20(火) 10:00

過去の送信メール

調達先の更新について
2021.02.10(火) 10:00

被災状況についての確認
2021.03.01(火) 10:00

回答済 未回答 検索

取引先名	拠点名	日付	ステータス
<input type="checkbox"/> XY電子	XY電子東京拠点	2021.02.21 16:30	正常
<input type="checkbox"/> YC工業	YC東京拠点	2021.02.21 16:00	異常

Resilireのソリューション



コントロールタワーの構築：サプライチェーンや拠点全体をツリーでマッピングし可視化します。



災害情報の収集：24時間365日気象庁,電力会社の情報を監視し即時に国内の災害情報を収集します。



マップで影響拠点を可視化：収集した災害情報から企業への影響範囲を可視化します。



被災状況の把握：社内チームやサプライヤーにメールやアンケートを送信する事ができ、情報を集約する事が可能です。災害発生時には自動メールを送信し円滑に被災状況を確認することが可能です。



コラボレーション：クラウド上で社内チームやサプライヤーとのコミュニケーションが可能になります。また、リスクアセスメント、サプライチェーンの見直し等も可能になります。



BCM体制の構築：BCPを陳腐化させず、常に実行可能にアップデートし続けることができます。

Resilire導入のメリット

損失の回避：安定供給を実現することで、機会損失や、顧客への損害を与えることによる契約解除(時に損害賠償請求)等の被害を予防します。

競合優位性の向上：安定供給の実現に向けたIT活用でPRする事でより選んで貰う付加価値になる

ヒヤリハットの検知：自然災害や事故の発生時に影響ある拠点をすぐに気づくことができます。

稼働時間の削減：平時の拠点及びサプライヤーの管理や、リスク分析・リスク予防に掛かる稼働時間を削減します。

最低限のBCPを最小限で構築：既存の情報をインプットだけで最低限のリスク対応を実現できる

ネットワークの可視化：関係する拠点やサプライヤーのネットワークをクラウドで可視化します。

優位性

クラウド完結
シンプルで管理しやすいUX

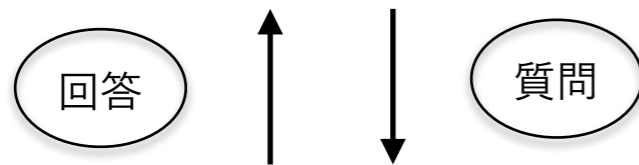
わかりやすいUIで
様々な災害情報を収集

担当者の**管理に掛かるコストを大幅に省ける**こと

リスク発生時に**影響拠点が早期に把握できる**ことが大きな優位性です

専属コンサルタントの徹底的フォロー

Resilireには「無償のコンサルティングサービス」が付帯されており、活用方法に関するご質問は勿論のこと、事業貧弱性や対応策等のノウハウ提供も行います。



弊社専属コンサルタント

【サービス内容】

- Resilireの活用方法に関するご案内
- 企業のリスク項目の洗い出し支援
- 事業の重要度分析の支援
- 防災研修、社内研修(オプション有償サービス)

【ご利用料金】

無料※Resilireご利用契約に含まれます

※研修等は別途お見積もりになります。

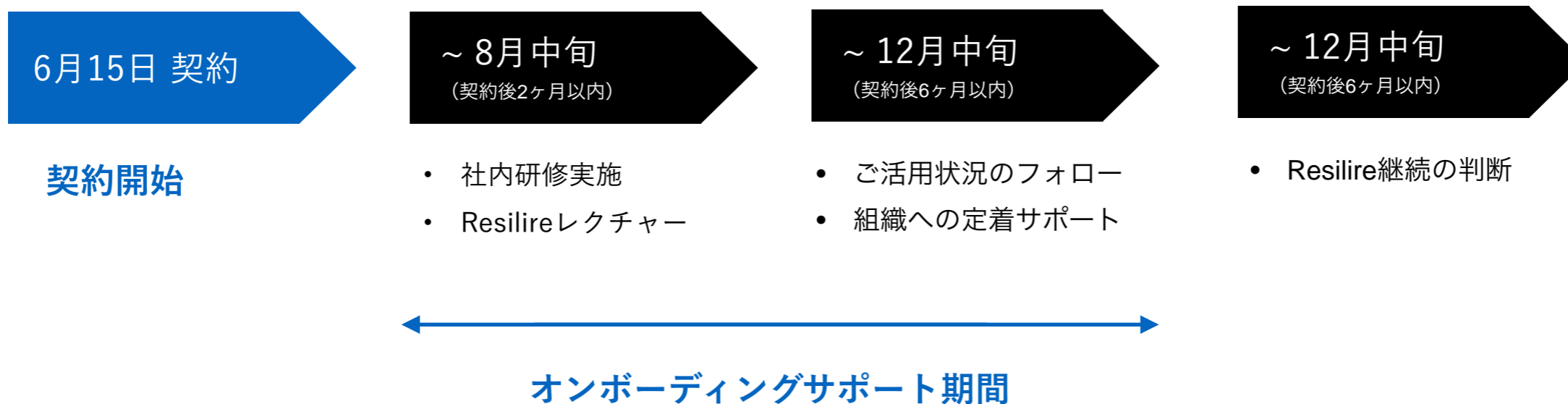
活用に向けたオンボーディングサポート

オンボーディングサポートの流れ

Resilireご契約後の半年間

Resilireのご活用のサポートをさせていただきます。

例) 契約開始日：6月15日の場合



会社のご紹介

弊社は2018年に設立以来「**地球規模の災害レジリエンスを構築する**」というミッションのもとプロダクト開発を行っている防災テックカンパニーです。

代表は法人向けにITコンサルティング事業を展開する会社を経営しておりましたが、西日本豪雨を関西で被災した経験から、防災に貢献できる事業を生み出したいと強く思い同社を立ち上げました。テクノロジーの力で、持続可能な社会づくりに貢献します。

社名 株式会社Resilire

設立 2018年9月6日

本社 〒153-0044 東京都目黒区大橋2丁目12-13

資本金等 2,001万円(資本準備金を含む)

代表者 津田 裕大

事業内容 サプライチェーンリスク管理サービス「Resilire」の開発・運営

お問い合わせ



金額や導入のご相談等
下記よりお問い合わせください。

メールはこちら
info@resilire.jp



MAIL : info@resilire.jp サービスサイト <https://www.resilire.jp> 企業サイト <https://corp.resilire.jp>
オフィス：〒153-0044 東京都目黒区大橋2丁目12-13